(1) 基礎看護臨地実習
ア　保健医療福祉施設の機能と看護の役割
イ　対象の理解
ウ　看護におけるコミュニケーション
エ　日常生活の援助
オ　看護の展開
(2) 領域別看護臨地実習
ア　成人看護臨地実習
イ　老年看護臨地実習
ウ　小児看護臨地実習
エ　母性看護臨地実習
オ　精神看護臨地実習
(3) 統合実践看護臨地実習
ア　在宅看護臨地実習
イ　看護の統合と実践

3　内容の取扱い

(1) 内容を取り扱う際には，次の事項に配慮するものとする。
ア　生徒が主体的に看護に関する課題を設定し，問題解決を図る学習を行うこと。
イ　看護科に属する各科目と関連付けるとともに，事前及び事後の指導を適切に行うこと。また，感染や医療事故などの防止及び守秘義務や個人情報保護に関する指導を徹底し，安全と衛生に十分留意すること。
ウ　〔指導項目〕の(1)のオ，(2)のアからオまで，(3)のア及びイについては，学科の特色に応じて，扱わないことができること。
(2) 内容の範囲や程度については，次の事項に配慮するものとする。
ア　〔指導項目〕の(1)については，看護を行う多様な施設の機能と看護の役割，患者・入所者などの総合的な把握及び看護におけるコミュニケーションの重要性，対象者の状態に応じた日常生活の援助を扱うこと。
イ　〔指導項目〕の(2)については，各領域の看護の体験を通して看護の理論と実践とを結び付け，各領域の看護の特質と対象の個別性について扱うこと。
ウ　〔指導項目〕の(3)については，看護科に属する各科目の知識と技術の統合化を図れるよう，臨床での実務に即した実習を行うこと。アについては，多職種と連携・協働し，地域や生活の場で行う看護活動を扱うこと。イについては，スタッフ業務や管理業務，夜間業務の一部を含むなどの総合的な実習を行うこと。

第13　看護情報

1　目　標

看護の見方・考え方を働かせ，看護情報に関する実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，看護の実践に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 看護情報について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
(2) 看護情報に関する基本的な課題を発見し，看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。
(3) 看護情報について，よりよい看護の実践を目指して自ら学び，人々の健康に関する課題解決に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2　内　容

1に示す資質・能力を身に付けることができるよう，次の〔指導項目〕を指導する。

〔指導項目〕

(1) 情報社会の倫理と責任
ア　情報社会の特徴
イ　情報社会の倫理
ウ　情報を扱う個人の責任
(2) 看護における情報の活用と管理
ア　保健医療福祉分野の情報
イ　情報システムの特徴
ウ　情報の活用
エ　情報の管理
(3) 看護における課題解決
ア　課題に応じた情報収集
イ　情報分析と解決方法
ウ　情報の発信方法

3　内容の取扱い

(1) 内容を取り扱う際には，次の事項に配慮するものとする。
ア　多様な題材やデータを取り上げ，情報技術の進展に応じた演習などを通して，生徒が情報及び情報ネットワークを適切に活用できるよう，情報の信頼性を判断する能力及び情報モラルを育成すること。